

〈解答〉

- ① 1 (1) (最初) 自然の (最後) という (完答)
 (2) [例] 地域や時期で特有の個性をもち、また同じ地域であっても時間的に変化している (36字)

- 2 ア
 3 単純
 4 工

配点 各2点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 (1) 傍線部①の直前の段落の一文目に、「この結論」とあることから、さらにその前の段落に、傍線部①「さきほどの結論」の内容が述べられていることがわかる。傍線部①の二段落前にある、「とある博物館の土器製作に関する研究を目的したことがある。それは、自然の中で粘土や土が混ざったものを使えば、十分に土器を作ることができるといふ、重要で単純なものであった。」の部分に注目する。

(2) 「調合」とは「混ぜ合わせる」という意味で、本文の場合は、縄文土器を構成する物質について、どのような物が混ぜ合わされているかを述べたものである。設問では、「調合の方法の変化」について問われているので、傍線部①の直前の段落にある「実際の縄文土器の粘土の構成物は、地域や時期によって特有の個性をもち、さらには粘土に混ぜ込む砂や繊維などの素材が、同じ地域であっても時間的に変化している」の部分を使ってまとめればよいとわかる。

- 2 傍線部②の直前に、「結論が原因におきかわってしまうような」とあるのに注目する。これは、1(1)に出てきた「自然の中で粘土や土が混ざったものを使えば、十分に土器を作ることができる」といふ「結論」について、「自然の中で粘土や土が混ざったものを使えば、十分に土器を作ることができる」から、縄文土器はすべて自然の中にある粘土や土だけで作られたと結論付けられてしまうことを想定して述べたものである。しかし、「自然の中で粘土や土が混ざったものを使えば、十分に土器を作ることができる」といふ説は、実際には、仮説の一つにすぎず、この説では解決できない問題も現に存在するのである。つま

り、さまざまな問題すべてを解決できていないにもかかわらず、その説が正しいと思いつくことを、筆者は「大きな間違い」と述べているのである。

3 ③の直後に、「……ばかりではなく、多様な変化」とあるのに注目する。これによつて、③には「多様な変化」と対になる表現が入ると推測できるのである。「多様」の対義語として、「一様」「単調」「単一」などがあることをふまえて、それに近い言葉である「単純」（本文の第一段落）を導き出す。

4 最終段落に、「各地で行なわれ、人気の高い土器作りの場面で、こうした取り組み（Ⅱ）仮説をもったモノ作り）がより多く行なわれたならば、土器は今よりもっと雄弁に歴史を語るに違いない」とあることから、「土器作りに、仮説を検証する作業を組み込んではどうか」とある、Ⅱが正解であるとわかる。